



いろは呑龍新聞

2019年(平成31年)1月号
第37号

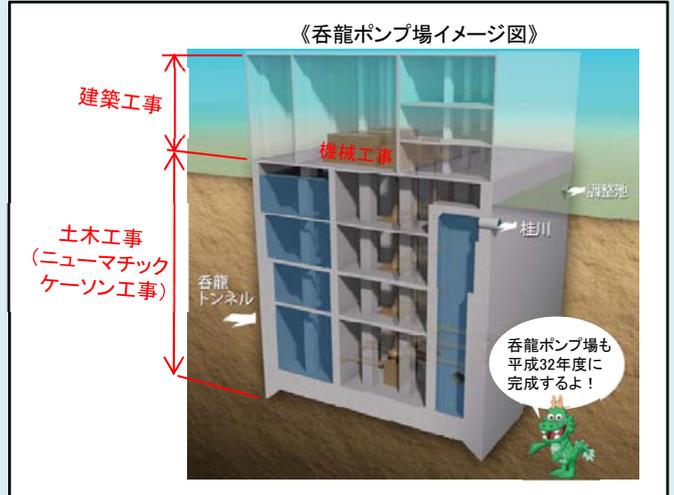
いろは呑龍トンネルに貯めた水を桂川へ放流するポンプ場を造っています。

呑龍ポンプ場土木

呑龍ポンプ場土木工事は、本年いよいよニューマチックケーソン工法による本体沈設作業に着手します。

本年は平成32年度のいろは呑龍トンネル南幹線の暫定供用開始によって浸水対策区域を拡大する長岡京市を中心に、工事見学会の開催や施設公開など、いろは呑龍トンネルの整備効果をより多くの方へ知っていただくための機会をつくっていきます。

南幹線管渠の浸水対策対象区域にお住まいの方、浸水対策やいろは呑龍トンネルに興味のある方は是非現場見学会にご参加ください。



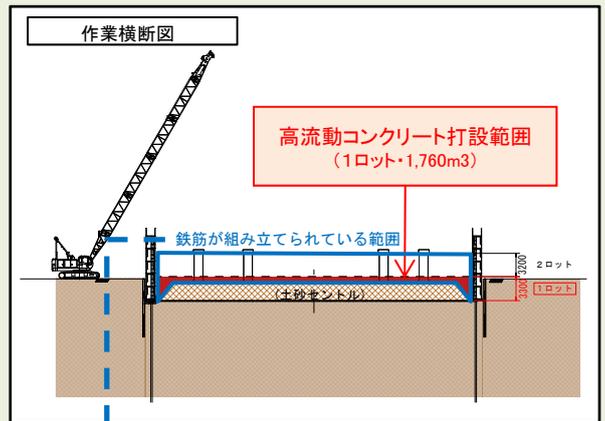
底盤の構築(高流動コンクリート)

現在、現場ではポンプ場本体の床部分である底盤(地下作業室の天井スラブ)を造っています。

約3か月を費やした底盤部分の鉄筋組立作業が完了し、1月22日に1ロット目のコンクリートの打設を行いました。

一番下部の1~2ロット間は鉄筋が過密であり、通常のコンクリートでは鉄筋間への充填が難しい他、底盤と刃口は大量のコンクリートを一度に打設して一体性を高める必要があるため、高い流動性により鉄筋間への充填が確実であり、また短時間での打設が可能な高流動コンクリートを使用しました。

底盤のコンクリート打設は引き続き、低熱コンクリートを使用した2ロット目の打設を行います。



底盤上部配筋

ポンプ場航空写真 (H31.1)

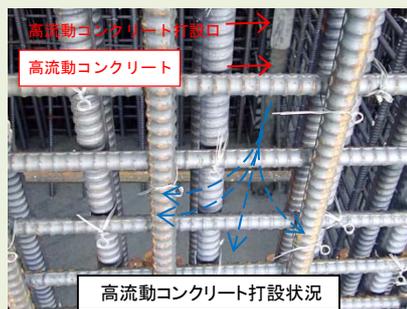


底盤上部の鉄筋配筋状況



ポンプ車+25mブームによる打設状況

高流動コンクリートは、一般的なコンクリートと比べて流れやすい特性があるから、パイプレータで締固めなくても充填されるんだ。



スランブコーンにコンクリートを詰めて引き抜くと??



高流動コンクリート



一般的なコンクリート